

れんごう中越地協

第975号 2018. 8. 21
連合中越地域協議会
長岡市東蔵王2-2-68
TEL 0258-24-0515
FAX 0258-24-8930
発行人 矢島 良彦
定価 1部10円
購読料は会費に含まれる



連合中越第26回親善囲碁将棋大会開催

棋士30名が熱戦を繰り広げる

優勝は、囲碁の部・川上さん、将棋の部・青山さん

連合中越第26回親善囲碁将棋大会が、7月21日(土)に長岡市栃尾文化センターで開催され、総勢30名の棋士による熱戦が繰り広げられ、上位者には賞品、参加者全員に栃尾名物の「ジャンボあぶらげ」が渡された。

第26回親善囲碁・将棋大会は、囲碁の部は、坂井さん(元栃尾支部長)がつとめ、主催者を代表して室橋連合中越幹事(教宣文化担当)が「参加者の親善



交流が目的なので、日頃の腕前を十分発揮し、楽しんでほしい」と等と挨拶を述べた。

次に各部に分かれて、審査委員長(将棋の部・稲田勝也さん、将棋の部・青山研介さん)からルールの説明が行われた。

初戦は、申告段級位の対戦表により、開始となった。

対局がはじまると部屋は静まり「パチッ。パチッ」と盤を打つ音が響き、緊張感が漂う中、お互いに手の内を



知った同士でも、一手一手の真剣勝負が展開された。



対局は一局約50分程のルールで、時間をめいっばい費やす人、わずかに10分程で勝敗が着いた人等様々であった。

結果は、次のとおりとなった。(敬称略)

- 囲碁の部
 - 第1位 川上英治
 - 第2位 荒木和也
- 最低賃金引き上げ
- 長岡市 見附市要請

新潟県最低賃金引き上げに関する要請が、7月23日(月)11時から久住見附市長に、翌24日(火)14時30分には磯田長岡市長に要請を行った。

これは、新潟県最低賃金審議会へ引き上げの必要を要請してもらった。昨年から行っている。

23日には、桑原連合新潟副事務局長、小林連合中越地協事務局

着いたところは 整骨医 (敷かれてない 支えているんだ 尻の下)

- 長3位 小野田藤雄
- 将棋の部
- 第1位 青山研介
- 第2位 金澤裕司
- 第3位 関勝義

将棋の部が早く終えたため、各部毎の閉会式となった。各受賞者に羽賀連合中越副議長から賞品が手渡され、健闘をたたえ合った。

囲碁の部も同様に賞品が手渡され、各審判長と協力いただいた坂井さんにも御礼が贈られた。このほか、地協賞やブリー賞、参加者全員には栃尾名物ジャンボあぶらげが配られた。

今年の参加者は、各部とも奇数となったため、組み合わせに苦労した。

また、若い人の参加もあつた。ぜひ、来年はより多くの参加を期待したい。

と荻原見附地区支部事務局長、佐々木見附市議が久住市長を訪れ、24日は、連合新潟桑原副事務局長、矢島連合中越議長、横澤同副議長と小林同事務局長が磯田市長を訪



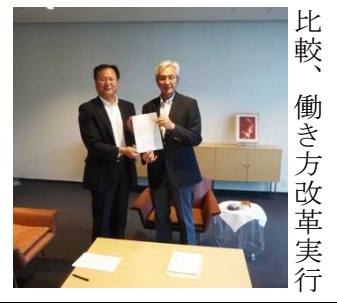
れ、矢島議長から要請書を渡し、近隣県との

8月5日(7日)で、2018平和行動in広島に参加させてもらいました。5年前の2013年にも参加させてもらい2回目になりました。広島に到着して始めに、前回はピースウォークで平和記念公園内の慰霊碑ガイドを受けましたが、今回は被爆路面電車乗車学習会で被爆建物等の説明を受けました。市内19箇所を巡るガイドには連合広島青年部の方々がマイクを取り、汗だくで各所の説明をしていただきました。▼説明の中で印象深かったのは、爆心地から2.3kmの御幸橋で元中国新聞カメラマン松重美人さんが、被爆から3時間後に撮影した写真がガイドブックに載っており、松重さんは「地獄化した爆心地でフラインダーを覗くと、苦しみにもがく被爆者がカメラを見たため、どうしてもシャッターが押せなかつた。何故、こんなひどいこ



副議長 羽賀 実

とを。涙があふれた。報道としての使命感が頭をもたげ、悩んだ末に5枚の写真撮った。また、その写真には被爆者の先頭に立って、語り部活動を行なっている坪井直さんが偶然写っている。と説明がありまして。前回、参加の連合ヒロシマ集会では坪井直さんから被爆体験を聞いていたのでも、リアルな繋がりを感慨深く感じました。▼広島は原爆投下から73年となり、被爆者も高齢化し当時の悲惨な状況を語り継ぐのも難しくなっている中、世界の動きとして核兵器禁止条約が制定されて1年が過ぎました。核兵器保有国と条約推進国が分裂したまま、国際的な緊張が各地で続いています。こうした中、日本政府が核廃絶に反対しているのは、唯一の被爆国としての責任放棄に等しく、本当に恥ずかしいと思います。



比較、働き方改革実行計画での議論経過等を説明し、引き上げの必要を要請した。

柿川に親しむ会 第1回実行委員会 代表・プラン21は、

第1回実行委員会を7月19日(木)午後6時30分から、ながおか市民センターで開いた。

今年で22回目を迎える事業には、プラン21、NPO法人地域循環ネットワーク、連合中越地協(国民市民担当)とSJネットから総勢9名が出席して、今年度の実施内容を◆市内歴史探訪3コースを組み込んだ「第22回柿川周辺清掃と歴史探訪の集い」。

実施日は、10月6日(土)午前中。◆集合場所は、南町公園。◆戦災資料館で空襲体験のお話を聞く等と決定した。



サラリーマン川柳(オイ親父! 頼む時だけ お父さん) (一万歩 着いたところは 整骨医) (敷かれてない 支えているんだ 尻の下) (テキストと 臨機応変 紙一重)

サラリーマン川柳 (手抜きではないのワイルド 料理なの) (贅沢で 入った店には 妻がいる) (ダイエット 三時の菓子で 倍返し) (あの世でも 一緒だよと 犬に言う)

見附そば道場

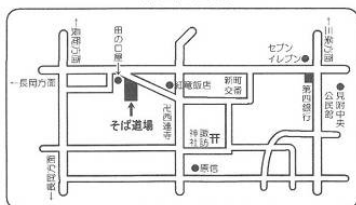
こだわりの和そば専門店

そば粉 100% つゆあごだし使用!
こだわりの逸品、手打ちそばをご賞味ください。



■営業日/時間 金・土・日曜日
11:30~14:00

みなさまのお越しを
お待ちしております。



※手打ちそば体験者募集しています。
第2、第4水曜日(要予約)
(詳細はお問い合わせください。)
体験1回 3,000円



そば道場

代表 上田健治
〒954-0057見附市新町3丁目2番21号
TEL: 090-2993-8310

連合中越加盟単組紹介

— ヤマト運輸労働組合 —



ヤマト運輸労働組合長岡支部の紹介をいたします。全国に62支部ある中の我が長岡支部は、新潟県の自動車の長岡ナンバーのエリアを支部のエリアとし、組合員520名、三役、執行委員11名、青年部2名の16名に、役員のいない職場に連絡員を置き活動しています。

行事の中で最も動員が多いのは、長岡地区メーデーです。今年は、78名が参加して長岡の目抜き通りを行進いたしました。その後行ったボウリング大会でも、豪華景品目当てに大いに賑わいました。

活動では、2年前より、パート社員の方も組合員化し、多様な働き方に対応すべく奮闘しております。



2018にいがたワーク&ライフフォーラム in 上越

連帯・協同でつくる安心・共生の福祉社会の実現に向けて

人間らしく生き、働き、暮らすことのできる社会に向けて、労働者福祉運動は「労働を中心とした福祉型社会」の実現をめざしています。このフォーラム開催は、労働者福祉運動に携わる諸団体をはじめ、地域課題に取り組むNPOや市民活動団体、自治体との連携を図り、相互に補完しあい、より大きな相乗効果を発揮できる可能性を追求していきます。多くの方々がご参加くださいますようお願いいたします。

2018年10月13日(土) 10:15~ 受付開始 9:30~
市民交流施設高田公園オーレンプラザホール

午前部
10:15~12:15
高田公園オーレンプラザホール
基調講演 / 藤田孝典氏(「下流老人」著者)

午後部
13:30~16:40
オーレンプラザ内または開催団体現地等
セッション / 県内・市内で活躍する11団体
※裏面の「セッション一覧」からお選びください。

交流会
17:30~デュオ・セッション上越
参加費 1人 3,000円
※交流会のみ参加はできません。交流会は別に申し込みください。

基調講演 / 藤田孝典氏

全世代に広がる貧困とワーキングプア

— 地域共生を取り戻すために —

働いても貧困だというワーキングプアが多く、若者や子育て世代、シングルマザーなど多様な人々が生きに苦しんでいます。これらの貧困に対して、私たちはどう連携して組織化しながら立ち向かえるか、一緒に福祉実践や運動について考えたいと思います。

藤田孝典(フナタカノ) 氏 / 首都圏で生活困窮者支援を行うソーシャルワーカー、NPO法人ほっとプラス代表理事、聖学院大学人間福祉学部客員准教授、反貧困ネットワーク埼玉代表、ブラック企業対策プロジェクト共同代表、厚生労働省社会政策審議会特別部会委員(2013年度)、著書に『貧困クライシス』(毎日新聞出版 2017)、『続「下流老人」』(新潮社出版 2015-2016)、『貧困世代』(講談社 2016)など多数。

主催 / 2018にいがたワーク&ライフフォーラム in 上越実行委員会
共催 / 新潟県労働者福祉協議会、上越地区労働者福祉協議会、新潟県労働者福祉協議会、全労済新潟推進本部、(一財)新潟ろうきん福祉財団
後援 / 新潟県、上越市、認定NPO法人いきまき野NPOサポートセンター、上越労働者福祉サービスセンター
※この事業は、一般財団法人 新潟ろうきん福祉財団の公益支出事業を主たる財源として開催します。

要申込(定員400名) ※お申し込みは、別途申込書にてお願いします。 申込期限 9月3日(月)
参加無料(交流会除く) ※参加の必要なのは、各自各自の手続きです。 ※交通費、定員になり次第、締切ります。

お問合せ先 (一財)新潟ろうきん福祉財団 ☎025-288-5273 連合新潟 ☎025-281-7555 上越地区労働者福祉協議会 ☎025-544-0550

2018 Niigata Work & Life Forum in Jouetsu

セッション一覧

●別紙の「参加申込書」に、セッション参加の第1希望、第2希望をご記入ください。

■オーレンプラザコース ※第1グループ(1~3)から1つ、第2グループ(4~6)から1つを選んでください。

第1グループ 13:30~15:00		第2グループ 15:10~16:40	
会議室	1 明日は我が身の相続・財産管理トラブル 30分 ~元気に生きる人生百歳時代の終い方~ 超高齢化社会の現代、心身共に健康で最期を迎える人はわずか。元気に生きるための財産の管理や相続のことを考え、後悔することのないよう、法律専門家の視点で実例を交えてアドバイス。 講師:若野秀人(司法書士) 主催:新潟県労働金庫	会議室	4 食品ロス削減とフードバンク活動 30分 ~上越地区に新しい拠点づくり~ 今後ますます増えると予測される上越地区のニーズに応えるために、フードバンク活動の上越・柏崎拠点づくりに向けて、食品ロス削減や生活困窮者支援、フードバンク活動の講座を予定。 主催:NPO法人フードバンクにいがた
研修室	2 種子法廃止と食の安全・安心を考える 35分 財界主導の規制改革委員会の審議を受けた種子法廃止により種子の独占や値上がりの危惧など、農業関係者に与える影響等について種子法に詳しい専門家による講演とパネルディスカッション。 主催:にいがた協同ネット	研修室	5 「人生100歳時代」に働く 35分 産業構造や就業期間など就業環境が変わりつつある中、健康で安心して働ける環境づくりは大きな関心事です。本セッションでは、「新潟県自治研究センター」に、調査・研究結果を報告いただきます。 主催:日本労働組合総連合会新潟県連合会(連合新潟)
多目的室	3 働く子育て家庭を支える 30分 ~どんな子育て支援が必要か?~ 共働き世帯が増える中、安心して子育てするために必要な支援策は何か、オーレンプラザ内のこどもセンター見学や講師によるミニレクチャー、グループ討議で考える。 講師:奥田典子(NPO法人子育てひろば全県連絡協議会) 主催:認定NPO法人 マミーズ・ネット	多目的室	6 ペットブームの裏側で 30分 ~多頭飼育崩壊の事例から~ 上越地域で行っている捨て猫等の保護や、保護した猫の里親探し等の活動を紹介しながら、上越で起きた「多頭飼育崩壊」等の事例報告と「殺処分ゼロ」に向けた意見交換会。 主催:しっぽのなかま上越

■現地訪問コース ※第3グループ(A~E)から1つを選んでください。

第3グループ 13:30~16:30	
A 「わたしは、ダニエル・ブレイク」上映会と市民団体による活動報告 150分 イギリスにおける貧困・労働問題と一人の人間の尊厳を巡る映画「わたしは、ダニエル・ブレイク」の上映を実施。また、地域における貧困問題の解決策のひとつでもある「子ども食堂」の運営者によるトーク。 会場/高田世界館 主催/NPO法人街なか映画館再生委員会	C ぶらり直江津・湊町「旅情のまち・日本海直江津まちあるきツアー」 50分 直江津の歴史や並みの魅力を紹介するガイド付きのまちあるきツアー。海と歴史と人情のまち・直江津の情緒溢れる路地や坂道、雁木の街並みや土蔵造りのお寺など、魅力を堪能。直江津は「まちあるき」が大好きなまち。 ★昼食有(自己負担) 会場/直江津中心市街地周辺 主催/LLCまちあるき直江津
B 雁木のまちで仕事と生活を発見 35分 富田地区の雁木町家コミュニティでリノベーションによるカフェや民泊の経営、定住・移住事例の現場を訪問、地域との連携、起業のいきさつと経過、展望などを聞く。 ★昼食有(自己負担) 会場/富田中心市街地周辺 主催/一般社団法人雁木のまち再生	D 山里における地域づくりのお話とわらわらワークショップ 30分 伝統行事の復活や、子どもたちへの地域教育、農産物加工、古民家カフェ、高齢者サロンの企画、運営など活動は多岐に渡り、まかなう力を高めながら自立した地域づくりを目指している。 ★昼食有(自己負担) 会場/上越市桑取地区 主催/NPO法人かみえちこ山里ファン倶楽部
E 「森のようちん」のフィールドで活動紹介と森づくりワークショップ 30分 最小限の設備を持つのみで、四季を通じて森の自然と向き合いながら過ごす野外幼児教育「森のようちん」について、実際のフィールドで活動を紹介。長年携ったフォレストデザイナーによる森づくりワークショップを実施。 会場/上越市大町でくくの森周辺 主催/NPO法人 緑とくらの学校	